

プレスリリース

Nuit des Idées 2018 - L'imagination au pouvoir ou « Le réel pour utopie »

## アイデア・ナイト 2018 京都 思想のタベ 想像力に至上権を、あるいは「ユートピアのような現実」 1月25日(木) 18:30 - 21:00

アイデア・ナイトは、世界 5 大陸で同日開催される、パリ発の討論 & 交流イベントです。日本では昨年につき 2 度目の開催となる今回、想像力に至上権\* あるいは「ユートピアのような現実」をテーマに京都で開催します。

\*フランスの五月革命(1958年)におけるスローガン

1960 年終盤の日本で浮上した相反する二つのユートピアをめぐって、「過去のユートピアをどのように再考するか」が今回の討論のベースとなります。

一方は「人類の進歩と調和」を謳い文句にした万国博覧会が想像したユートピアであり、もう一方は、様々な芸術家グループによって社会の周縁に構想されたオルタナティブ・ユートピアです。

日仏 4 名の研究者、アーティストをお招きし、来場者とともに活発な意見交換を行います。



日時: 2018年1月25日(木) 18:30 - 21:00

イベント終了後、隣接するカフェで  
交流会あり

会場: アンスティチュ・フランセ関西 (旧 関西日仏学館) 京都市左京区吉田泉殿町 8

主催・お問合せ: アンスティチュ・フランセ関西

Tel. 075-761-2105 www.institutfrancais.jp/kansai

入場無料 / 日仏同時通訳付き

※ **ライブ配信**: イベントは、日仏 2 か国語で youtube にてライブ配信します

### アイデア・ナイトとは? ~ 世界 60 カ国で 100 件の同日開催

パリの同時多発テロをきっかけに、多様な人々との対話と交流を掲げて 2016 年 1 月、フランスのファビウス外務大臣(当時)により初開催された討論イベント。知識人や芸術家に加え、一般の参加者が一緒になって「より良い明日の世界」のためのアイデアを持ち寄り、意見を分かち合う催しです。

翌 2017 年 1 月には、パリに本部を置くアンスティチュ・フランセの参加により、世界 5 大陸で 40 以上の国とフランス国内 30 の都市で同日開催され、大きな成功を収めました。

2018 年は、約 60 カ国において 100 件ほどの討論会が開催されます。日本では**京都が唯一の開催地**となります。

産経新聞の石野伸子をモデレーターに迎え、大澤 啓は 1970 年代の日本の芸術運動を今日の視点で振り返り、マチュー・カペルは日本の映画人におけるユートピアの変遷について、エリー・デュリングは自身のレトロ未来の理論について、椿 昇は日本人と権力、ユートピアの関係について語ります。

●開会の挨拶 .....

- ローラン・ピック 駐日フランス大使 (予定)



●講演 .....

- マチュー・カペル Mathieu CAPEL

日仏会館・フランス国立日本研究所 研究員 / グルノーブル・アルプ大学准教授  
著書には、『日本脱出・1960 年代における日本映画』、Ed. Les Prairies ordinaires, coll. Cinéma, 2015、訳書には小林多喜二著、マチュー・カペル仏訳、『不在地主』(Amsterdam 出版社)など。



- エリー・デュリング Elie DURING

パリ・第 10 大学 哲学准教授

ベルクソンを中心とした、フランス現代思想が専門。フランス大学出版より刊行されたベルクソン全集の内、『持続と同時性』(2009 年)等の校訂、解題などを担当。著書に『つなぎ間違いーイメージの共存』など。その研究は「レトロ未来」(過去から見た未来)をめぐる斬新な哲学的思考を展開している。研究対象は哲学にとどまらず、現代アートをはじめとする様々な領域におよぶ。



- 大澤 啓 Kei OSAWA

東京大学総合研究博物館特任研究員

東京大学総合研究博物館特任研究員としてインターメディアテク設立時から展示企画に携わる。研究テーマは戦後日本美術史、アート&サイエンスの美学的考察、サウンド・スタディーズと録音音楽史、ミュージアムにおける映像アーカイブの再活用など。



- 椿 昇 Noboru TSUBAKI

現代美術家 / 京都造形芸術大学美術工芸学科長・教授

2003 年「国連少年」(水戸芸術館)。2009 年「GOLD/WHITE/BLACK」展、京都国立近代美術館個展。2013 年瀬戸内芸術祭の醬の里と坂手港地区のディレクションを担当。2017 年種子島宇宙芸術祭をはじめ数多くの地域芸術祭に参加。2018 年青森トリエンナーレ ディレクター。サンディエゴ、ボストン、東京、京都、台北等で個展、グループ展を多数開催している。



●モデレーター .....

- 石野 伸子 Nobuko ISHINO



産経新聞 編集局編集委員

1974 年産経新聞大阪本社入社。社会部をへて文化部所属。育児、女性問題など担当。文化部長、編集局次長をへて 2005 年から編集局編集委員。著書に「女 50 歳からの東京ぐらし」、NHK朝ドラのヒロインの生涯をまとめた共著「九転十起の女 広岡浅子の生涯」がある。産経新聞で「浪花女を読み直す」連載中。2009 年からラジオ大阪「ニューストウナイトいい大人」コメンテーター。